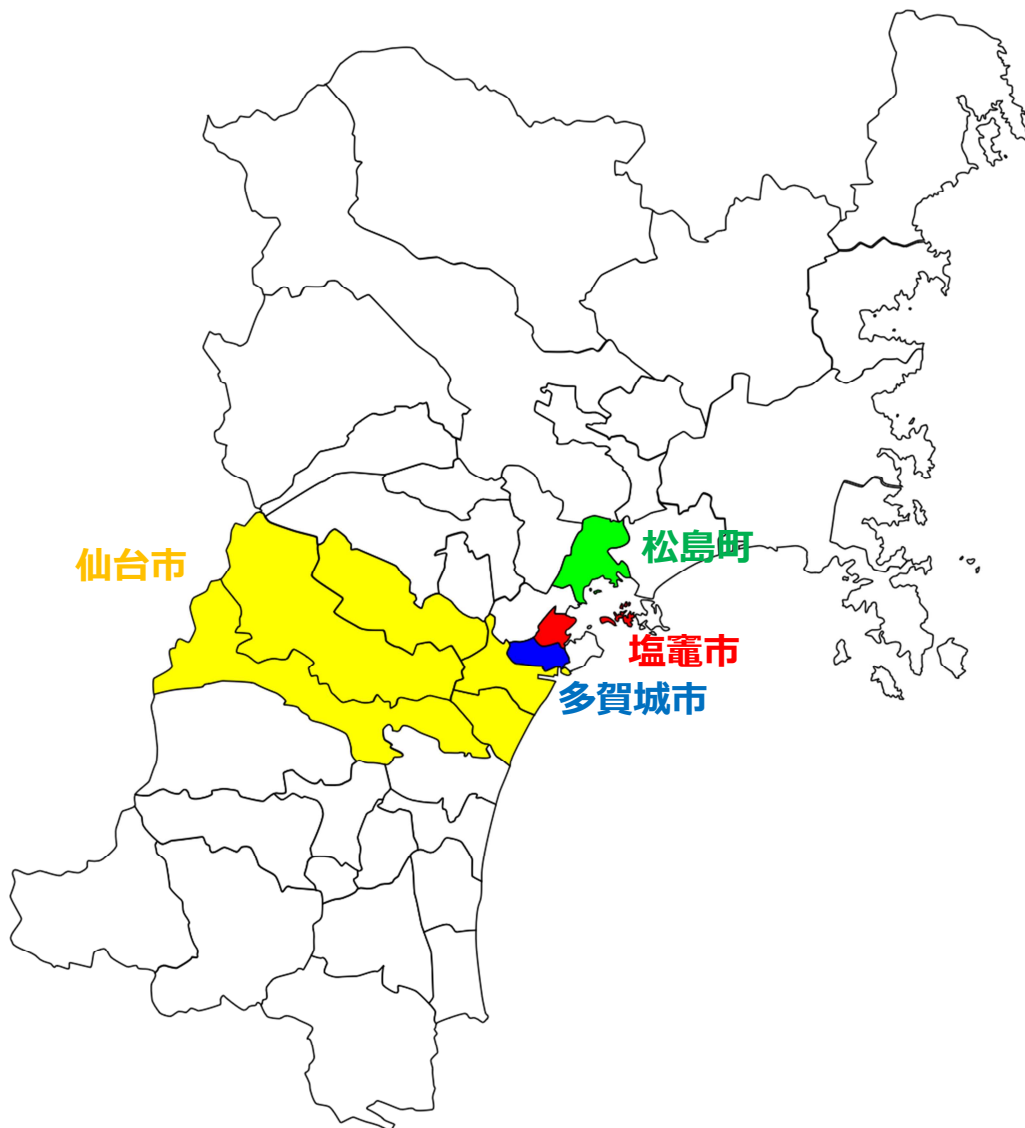


① 申請者	◎宮城県（仙台市・塩竈市・多賀城市・松島町）		② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E	
③ タイトル					
政宗が育んだ“伊達”な文化					
④ ストーリーの概要（200字程度）					
<p>仙台藩を築いた伊達政宗は、戦国大名として政治・軍事面での活躍は広く知られるところであるが、時代を代表する文化人でもあり、文化的にも上方に負けない気概で、自らの“都”仙台を創りあげようとした。</p> <p>政宗は、その気概をもって、古代以来東北の地に根付いてきた文化の再興・再生を目指す中で、伊達家で育まれた伝統的な文化を土台に、上方の桃山文化の影響を受けた豪華絢爛、政宗の個性ともいべき意表を突く粋な斬新さ、さらには海外の文化に触発された国際性、といった時代の息吹を汲み取りながら、これまでにない新しい“伊達”な文化を仙台の地に華開かせていった。</p> <p>そして、その文化は政宗だけに留まらず、時代を重ねるにつれ、後の藩主に、さらには仙台から全国へ、そして武士から庶民にまで、さまざまな方面へ広がり、定着し、熟成を加えていった。</p>					
⑤ 担当者連絡先					
担当者氏名	宮城県教育庁文化財保護課保存活用班 須賀正美				
電 話	022-211-3683	FAX	022-211-3693		
E-mail	suga-ma616@pref.miyagi.jp				
住 所	〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町3丁目8番1号				

市町村の位置図（地図等）



宮城県

仙台市中心部



塩竈市拡大図





多賀城市拡大図



松島町拡大図

仙台市郊外拡大図



ストーリー

◎伊達政宗と仙台藩の文化

仙台藩を築いた伊達政宗は、戦国大名として政治・軍事面での活躍は広く知られるところであるが、時代を代表する文化人でもあり、文化的にも上方に負けない気概で、自らの“都”仙台を創りあげようとした。政宗はその気概をもって、古代以来東北の地に根付いてきた文化の再興・再生を目指す中で、伊達家で育ま



【政宗所用の南蛮服飾
の陣羽織】

れた伝統的な文化を土台に、上方の桃山文化の影響を受けた豪華絢爛、政宗の個性ともいえるべき意表を突く粋な斬新さ、さらには海外の文化に触発された国際性、といった時代の息吹を汲み取りながら、新しい“伊達”な文化を仙台の地に華開かせていった。

そして、その文化は政宗だけに留まらず、時代を重ねるにつれ、後の藩主に、さらには仙台から全国へ、そして武士から庶民にまで、さまざまな方面へ広がり、定着し、熟成を加えていった。



【政宗所用と伝えられる黒漆の甲冑】

◎政宗による文化の確立

伊達政宗は、政治の拠点として新たに仙台城を築くにあたり、これまでの伝統を重視する姿勢を見せた。仙台は古代陸奥国府の所在地である宮城郡に位置することもあり、この地の名所・旧跡の再興と再生に力を尽くした。奈良時代の陸奥国分寺跡に薬師堂を建立し、平安時



【政宗が松島に建てた瑞巖寺】

代の坂上田村麻呂ゆかりの、さらには室町時代の奥州探題大崎氏崇敬の大崎八幡宮を仙台に移転させ、鎌倉時代以来陸奥国随

一の名刹と称された松島円福寺を瑞巖円福禅寺として再興した。その際に、畿内から当代一流の技術者を呼び寄せ、手の込んだ彫刻や極彩色からなる装飾性豊かな建造物や、金地に色彩豊かな濃絵で描かれた豪華絢爛な障壁画といった、桃山文化の豪壮華麗な手法を取り入れた。

一方で、伝統的な水墨画の世界も同時に取り入れている点に特徴がある。また具足や衣装などにも、斬新な美意識が徹底されている。

さらに南蛮文化の影響も受け、西洋世界への関心の高まりもみられる。政宗の文化的素養は、和歌や連歌、茶の湯、能楽、香といった伝統的な文化にも発揮された。これらは伊達家伝来の学を通して身につけられ、当代一流の文化人との交流の中で、磨かれていった。

◎政宗以後の文化の広まり

伊達政宗が築き上げた新しい文化は、その後さまざまな方面への広がりを見せ、より一層熟成されていった。その文化は、現在の宮城に暮らす人々の生活の中にも深く根付いている。



【豪華絢爛な桃山建築、大崎八幡宮】



【内部の厨子が豪華な圓通院霊屋】

・時代を越えた広がり

政宗の文化に対する姿勢は、二代忠宗、三代綱宗、四代綱村、五代吉村と、次代の藩主たちにも受け継がれ、さらに深化、発展を遂げていった。忠宗の手による東照宮、瑞鳳殿、圓通院霊屋、綱宗による陽徳院霊屋、綱村から吉村の手による鹽竈神社などの建造物には、政宗の志向した豪華絢爛さがうかがえる。

・全国への広がり

都の文化にあこがれた政宗であるが、それとは反対に都人たちは、古来遠いみちのくをあこがれの地として数多くの歌枕を詠んでいることから、領内にある松島や木の下など宮城郡内の歌枕の地に御仮屋を建て、酒宴を楽しんだ。政宗の歌枕への深い造詣は、忠宗や綱村による、古典の研究や名所旧跡の調査に引き継

がれ、藩を挙げて歌枕の地の再発見と整備、保護に取り組んだ。これらの成果が江戸にも伝わり、松尾芭蕉は歌枕の地を自らの目で確かめようと、松島をはじめ、壺

碑、末の松山、興井、籬島、榴ヶ岡、薬師堂などの歌枕の地を訪れ、その様子を『おくのほそ道』で紹介した。これがさらに大きな影響をおよぼし、仙台藩内の歌枕はますます全国へ広まっていった。

・庶民への広がり

政宗が築き上げた文化は、仙台北下の町人や職人など幅広い階層の人々に広がっていった。仙台藩とのつながりの深い民俗芸能が、仙台北下で上演され、藩の保護・制約のもとで演じられた。大崎八幡宮の社人が例祭に行っていた神楽、八幡宮別当が関わって

いた盆の鹿踊・剣舞、正月の城下の賑わいに華を添えた田植踊などの民俗芸能は、旧仙台北下、及びその近郊の庶民等がその命脈を伝えている。また仙台北下が最も賑わった東照宮例祭の仙台祭は、伊達政宗をまつる青葉神社の例祭に行われる、仙台・

青葉まつりに受け継がれている。

仙台藩の御用を務めた御職人たちが担っていた工芸品は、仙台北下の職人に引き継がれ、仙台平や仙台御筆、堤焼、仙台張子、仙台箆笥などへと広がっていき、今日でも伝統工芸品として生き続けている。



【四～五代にわたって建立した鹽竈神社】



【芭蕉の旅の目的地のひとつ松島】



【歌枕「壺碑」としても名高い多賀城碑】



【江戸時代からの伝統工芸品 仙台張子】



【現在にも伝えられる秋保の田植踊】

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
◎伊達政宗と仙台藩の文化				
①	くろうるしごまいどうぐそく かぶと 黒漆五枚胴具足 兜・ こぐそくつき 小具足付 (伊達政宗所用)	国重文	政宗が愛用した具足で、鉄地黒漆塗りの重厚な甲冑、頑丈な筋兜、細く長い弦月形をした金箔押し前立は、政宗が志向した重厚かつ華麗な伊達な文化を端的に表す。	仙台市 仙台市博物館
②	せんだいはんれきだいはんしゅしょう 仙台藩歴代藩主所用 じんぱおり 陣羽織	国重文 市有形 (工芸品)	山形文陣羽織は伊達政宗所用で、当時流行の南蛮服飾。水玉模様陣羽織は紫色の地に、五色の丸を配した華やかな意匠。孔雀羽根陣羽織は七代藩主重村所用とされ、孔雀羽根を使用した豪華な陣羽織。	仙台市 仙台市博物館
③	せんだいはんれきだいはんしゅぼしよしゅつどひん 仙台藩歴代藩主墓所出土品	市有形 (工芸品) 未指定	政宗が晩年まで身の回りで愛用していた品々で、欧州産の金製ブローチや当時珍しかった鉛筆等から、教養人政宗の姿がしのばれる。また二代忠宗の武具類、三代綱宗の眼鏡、煙管などがある。	仙台市 仙台市博物館 瑞鳳殿
④	もくぞうだてまさむねいぞう 木造伊達政宗倚像	県有形 (彫刻)	政宗没後 16 年の承応元年 (1652) に制作され、現存する政宗像の中で最も写実的な作品といわれる。弦月形の金の前立を好んだ、独創性を持つ政宗の姿を表している。	松島町 瑞巖寺
◎政宗による文化の確立				
⑤	せんだいじょうあと 仙台城跡	国史跡	伊達氏の居城。政宗は中世霊場である青葉山に所在した寂光寺等の寺院を移転し、広大な本丸を中心とした近世城郭を造営した。また、当時、千代と呼ばれた、この地を仙台に改め、仙台藩における政治、文化の拠点とした。	仙台市 仙台市
⑥	せんだいじょうおよ え ど かみやしき 仙台城 及び江戸上屋敷 しゅようたてもえすがたず 主要建物絵姿図	仙台市有形	本丸大広間や懸造、御成門等の仙台城の主要な建物が描かれており、仙台藩政にとって重要な建物の様相を具体的にみることができる。	仙台市 仙台市博物館
⑦	せんだいじょうほんまるおおひるましようへきが 仙台城 本丸大広間障壁画 ほうおうず 鳳凰図	県有形 (絵画)	仙台城大広間の中枢を飾った、桃山期狩野派による濃絵。覇気に満ちた華やかな政宗の武将としての精神が表している。	松島町 松島町
⑧	せんだいじょう わかばやしじょう 仙台城・若林城 しょうへきが に関わる障壁画	県有形 (絵画) 市有形	仙台城本丸大広間の扇面図は、銀切箔散地に開いた扇や中開きの扇等、大和絵の雅やかな画題を中心に描いている。また政宗が晩年をおくった若林城の遺品と推定される萩に鹿図・菊花図は、教養人としての政宗を雄弁に物語る。	仙台市 仙台市博物館

⑨	ずいがんじ ごだいどう 瑞巖寺五大堂	国重文	政宗が平安時代に創建された由緒ある堂を再建した。東北地方最古段階の桃山建築で、雄健な彫刻だが素木造の外観、対照的に奇巧をこらした家形厨子は伊達な文化を代表する。	松島町 瑞巖寺
⑩	おおさきはちまんぐう 大崎八幡宮	国宝	政宗による造営。現存最古の権現造りで、総漆塗、極彩色、飾金具による豪華で流麗な桃山様式の世界が広がる。政宗の志向を表わす、伊達な文化を最も代表する建造物。	仙台市 大崎八幡宮
⑪	むつこくぶんじやくしどう 陸奥国分寺薬師堂	国重文	古代以来の伝統ある陸奥国分寺の一角に、政宗が造営。内部の厨子は入母屋造、こけら葺で、壁画や扉は彫刻、金箔、飾金具で極彩色に装飾され、豪華絢爛な伊達な文化を表現する。	仙台市 陸奥国分寺
⑫	ずいがんじ 瑞巖寺 (本堂・庫裡及び廊下 ・障壁画)	国宝	政宗による造営。本堂外観は質素な和様であるが、内部の彫刻・彩色・金具、金地濃彩によって描かれる大小161画の襖絵障壁画は、仙台藩お抱え絵師によって描かれる。庫裡の豪華な妻飾りや廊下の構成美も、豪華絢爛たる伊達な文化の世界を表現している	松島町 瑞巖寺
⑬	けいちようけんおうしせつかんけいしりよう 慶長遣欧使節関係資料	国宝・ユネスコ記憶遺産	政宗がイスパニア・ローマに派遣した使節が持ち帰った資料群。ローマ市民権証書や十字架、支倉常長肖像画等があり、政宗の海外志向を表す。	仙台市 仙台市博物館
⑭	こんよばんこくぜんず 坤輿万国全図	国重文	藩校養賢堂に伝わる世界地図で、藩の天文方が仙台にもたらしたとされる。仙台藩では、養賢堂を中心に海外の学問や文化の探求が盛んであった。	仙台市 宮城県図書館
⑮	伊達政宗和歌詠草 「入そめて」	市有形 (歴史資料)	仙台開府を果たした政宗が、仙台の末永い繁栄を願って、これまでの千代の文字を仙台に改め、千代に限定せずに無限の繁栄を期する、という意味の和歌で、仙台開府頃の政宗の仙台に対する思いを伝える。	仙台市 仙台市博物館
◎政宗以後の文化の広まり				
・時代を越えた広がり				
⑯	とうしょうぐう 東照宮	国重文	二代忠宗による建立。漆塗、金箔、七宝の金具等で装飾される。内陣も絢爛たる彫刻や飾金具、彩色が施された厨子が安置される。	仙台市 東照宮
⑰	きようがみねだてけぼしよ 経ヶ峯伊達家墓所 ずいほうでん かんせん でん ぜん のう でん 瑞鳳殿・感仙殿・善応殿 (再建)	市史跡	初代政宗、二代忠宗、三代綱宗の霊屋。瑞鳳殿は伊達の文化を伝える豪華絢爛な廟建築として国宝に指定されていた。三殿ともに戦災で焼失し、昭和に再建された。	仙台市 瑞鳳殿
⑱	ようとくいんおたまや 陽徳院霊屋	国重文	二代忠宗の建立による政宗夫人愛姫の霊屋。規模は小さいが黒漆塗、極彩色、飾金具により、政宗の瑞鳳殿に類する豪華さと優美さを誇る。	松島町 瑞巖寺
⑲	えんつういんおたまや 圓通院霊屋	国重文	二代忠宗の二男光宗の霊屋。内部の厨子に華麗な彩色模様が施され、政宗好み引き継がれている。	松島町 圓通院

⑳	しおがまじんじや 鹽竈神社	国重文	政宗以降伊達家の篤い崇敬を受け、歴代藩主が神社の「大神主」として祭事を司った。現社殿は四代綱村が元禄8年(1695)に着工し、五代吉村の宝永元年(1704)に完成した。	塩竈市 志波彦神社・ 鹽竈神社
㉑	せんだいはんれきだいはんしゅしょうぐそく 仙台藩歴代藩主所用具足	市有形 (工芸品)	政宗に始まる五枚胴具足を歴代藩主や家臣も踏襲し、政宗の文化が藩内に広く受け継がれている。	仙台市 仙台市博物館
㉒	ちやしやく せんだいはんれきだいはんしゅさく 茶杓 仙台藩歴代藩主作	市有形 (工芸品)	歴代藩主たちが茶道に深い関心を示したことがわかり、茶道が政宗以後、歴代藩主に受け継がれていったことを表す。	仙台市 仙台市博物館
㉓	しおがまじんじやれきだいはんしゅほうのう た ち 鹽竈神社歴代藩主奉納太刀	県有形 (工芸品)	藩主による鹽竈神社への太刀奉納は慣例で、治世の節目に行われた。いずれも華麗な糸巻太刀拵で、作刀は藩お抱えの刀工が行った。	塩竈市 志波彦神社・ 鹽竈神社
・全国への広がり				
㉔	かんらんてい しょうへきが 観瀾亭及び障壁画	国重文 県有形 (建造物)	歌枕松島を眺望する地に、藩主が宿泊、休憩する御仮屋の御殿として建てられたもの。襖の濃絵の障壁画は桃山時代の特徴を良く表している。	松島町 松島町
㉕	おくのほそ道の風景地 つゝじが岡及び てんじん みやしろ 天神の御社	国名勝	古くから歌枕に詠まれた名所で、松尾芭蕉も「おくのほそ道」の中で、訪れたことを記し、その後多くの人々が訪れるようになった。	仙台市 仙台市
㉖	おくのほそ道の風景地 き した やくしどう 木の下及び薬師堂	国名勝	古くから歌枕に詠まれた名所で、松尾芭蕉も「おくのほそ道」の中で、訪れたことを記している。	仙台市 仙台市
㉗	たがじょうあとにつけたりてらあと 多賀城跡 附 寺跡	国特別史跡	多賀城は古代律令国家が造営した陸奥国府。平安時代に都の貴族たちは、この地を「みちのく」の名であこがれ、国府の官人だけでなく、幾人もの歌人が歌を詠んでいる。	多賀城市 多賀城市
㉘	たがじょう ひ 多賀城碑	国重文	陸奥国府、多賀城の修造を記した奈良時代の石碑で、二代忠宗の頃に発見された。水戸藩の徳川光圀の助言もあり、四代綱村が覆屋を建て保護した。	多賀城市 多賀城市
㉙	おくのほそ道の風景地 つぼのいしがみ いし 壺 碑 (つぼの石ぶみ)	国名勝	「陸奥のおくゆかしくぞおもほゆる壺の碑外の浜風」(西行)に代表されるように、遠くみちのくにある歌枕として、多くの歌に詠まれている。芭蕉の「おくのほそ道」の旅の中で紹介して、さらに広く知られることとなる。	多賀城市 多賀城市
㉚	おくのほそ道の風景地 すえ まつやま 末の松山	国名勝	「ちぎりきな かたみにそでを しぼりつつ すゑの松山 なみこさじとは」(清原元輔)など、多くの歌に詠まれ、歌枕の地として有名。	多賀城市 多賀城市
㉛	おくのほそ道の風景地 おきのい 興井	国名勝	「わが袖は しほひにみえぬ おきの石の 人こそしらね かわくまぞなき」(二条院讃岐)など多くの歌に詠まれ、歌枕の地として有名。	多賀城市 多賀城市

③②	おくのほそ道の風景地 まがき しま 籬が島	国名勝	「わが背子を 都にやりて 塩竈の まがきの島の まつぞ恋しき」(よみ 人しらず) など多くの歌に詠まれ歌枕 の地として有名。	塩竈市 志波彦神社・ 鹽竈神社
③③	おしま 雄島	国特別名勝	「みせばやな 雄島のあまの 袖だ にも 濡れにぞぬれし 色はかはら ず」など多くの歌に詠まれた歌枕の地 として有名。	松島町 松島町・瑞巖寺
③④	まつしま 松島	国特別名勝	平安時代以来、みちのくの歌枕として 多くの歌に詠まれている。芭蕉が「お くのほそ道」の旅の中で紹介して以 来、全国にその名が広まり、多くの文 人が訪れるようになった。	塩竈市 松島町 塩竈市・松島町
③⑤	とみやまかんのんどう ぼんしょう 富山観音堂と梵鐘	国特別名勝 県有形 (工芸品)	政宗の長女五郎八姫が改修させた彩 色豊かな建造物と寄進した梵鐘。芭蕉 に同行した曾良も「曾良旅日記」の中 で眺望の地として記している。	松島町 大仰寺
・庶民への広がり				
③⑥	おおさきはちまんぐう のうか ぐら 大崎八幡宮の能神楽	県無形民俗	大崎地方から仙台北下への移転に伴 い、その頃、大崎領内で行われていた 神楽を移伝したとされる。藩の扶持を 受け、社人が演じた由緒をもつ。	仙台市 大崎八幡宮
③⑦	あきう たうえおどり 秋保の田植踊	国無形民 俗・ユネス コ無形文化 遺産	正月、仙台北下で門付けしていたとさ れる 3 組(蕪・蟹・海老の田植組)の うち、蕪田植との関連が想定され、城 下から庶民への広がりを表す。	仙台市 秋保の田植踊保 存会(湯元・長袋・ 馬場の田植踊保 存会)
③⑧	おおさわ たうえおどり 大沢の田植踊	県無形民俗	藩主から賞賛の言葉を賜り、早乙女が 着用する振袖の裾に伊達の家紋にち なんだ竹に雀文の使用が許されたとい う伝承をもつ。	仙台市 大沢田植踊保存 会
③⑨	かわまえしおどり けんばい 川前鹿踊・剣舞	県無形民俗	江戸時代中期までに八幡町から伝え られたという。藩から鹿踊の幌幕に絹 布の使用を特に認められたという。	仙台市 川前の鹿踊・剣舞 保存会
④⑩	ふくおか ししおどり けんばい 福岡の鹿踊・剣舞	県無形民俗	江戸時代前期に、仙台北下八幡町で鹿 踊・剣舞を管理していた大崎八幡宮別 当寺から旧福岡村に伝えられた。	仙台市 福岡の鹿踊・剣舞 保存会
④⑪	おおさきはちまんぐう まつたきまつり 大崎八幡宮の松焚祭 (どんと祭)	市無形民俗	江戸時代の仙台北下では、正月の松飾 りを大崎八幡宮で焼く「松焚祭」が行 われていた。この行事が近代以降に 「どんと祭」の名称と共に普及し、宮 城の代表的な小正月行事となった。	仙台市 大崎八幡宮
④⑫	せんだいたなばた 仙台七夕	未指定	旧 7 月 7 日の節句だが、七代重村の頃 は 6 日に飾り、7 日朝に流した。明治 以降、紙衣・巾着等の独特の飾りが定 着するなど飾りが豪華になった。	仙台市 仙台七夕まつり 協賛会
④⑬	しおがまじんじゃ ほ てまつり はなまつり 鹽竈神社帆手祭・花祭	未指定	藩の許可を得て始められた氏子の祭 りで、鳥居までは鹽竈神社、その外側 は氏子が全責任を負う。重さ 1 トンの 神輿は荒れ神輿として知られる。	塩竈市 志波彦神社・鹽竈 神社、祭典委員会
④⑭	せんだい あおば 仙台・青葉まつり	未指定	二代忠宗が建立した東照宮の仙台祭 の系譜を引き、多くの山車が仙台市内 を練る。現在は政宗を祭る青葉神社例 祭に合わせ、市民が実施する。	仙台市 青葉神社・仙台青 葉まつり協賛会

④⑤	せんだいおふで 仙台御筆	県伝統工芸	筆製作は藩内の需要と産業振興を目的に政宗が大坂から職人を招いたのが始まり。品質の高い筆として知られる。	仙台市 大友毛筆店
④⑥	つつみやき 堤焼	県伝統工芸	仙台北城下の北に位置する杉山台で、茶道に通じた藩主の器等も製作された。後に堤町で甕や鉢などの、庶民の生活雑器も生産した。	仙台市 堤焼乾馬窯
④⑦	つつみにんぎょう 堤人形	県伝統工芸	四代綱村の頃、江戸の陶工を招いて堤町で製作され、歌舞伎の名場面を象った人形が特徴で、優美な彩色、洗練された形で、土人形の最高峰といわれる。	仙台市 芳賀堤人形製造所・つつみのおひなっこや
④⑧	せんだいひら 仙台平	国無形	堅牢で皺が付きにくく、藩主の贈答品にも使われた。今でも極上の袴の代名詞として晴れの舞台で着用される。	仙台市 仙台平
④⑨	せんだいはりこ 仙台張子	県伝統工芸	仙台北城下で作られ、主流のダルマは目入りで青色、宝船や福神を腹部に立体的に表現したもので、絢爛たる縁起物として現代でも親しまれている。	仙台市 仙台張子の会
⑤⑩	せんだいたんす 仙台簞笥	県伝統工芸	江戸末期に藩お抱え大工等が製作を始めた。黒漆塗りの金具で装飾された華麗な簞笥。外国人にも好評で、明治から大正期には輸出もされた。	仙台市 仙台簞笥協同組合

(※ 1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※ 2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文（工芸品）、県史跡、県有形、市無形等）。

(※ 3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。

(※ 4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

構成文化財の写真一覧

①黒漆五枚胴具足
兜・小具足付



②仙台藩歴代藩主所用陣羽織



③仙台藩歴代藩主墓所出土品



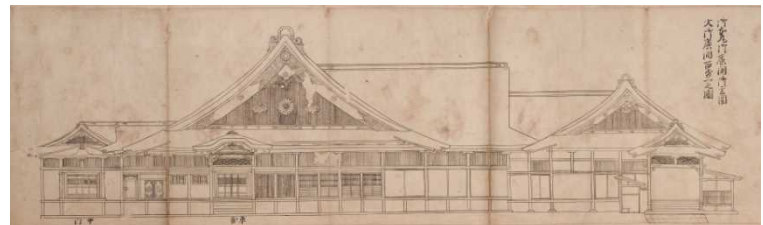
⑤仙台城跡



④木造伊達政宗倚像



⑥仙台城及び江戸上屋敷主要建物絵姿図



⑦仙台城本丸大広間障壁画鳳凰図



⑧仙台城・若林城に関わる障壁画



⑨瑞巖寺五大堂



⑩大崎八幡宮



⑪陸奥国分寺薬師堂



⑫瑞巖寺(本堂・庫裏及び廊下・障壁画)



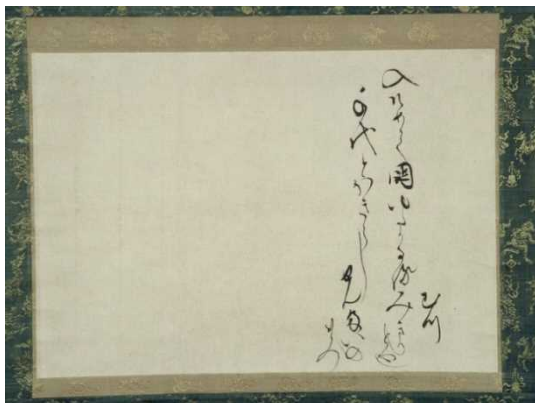
⑬慶長遣欧使節関係資料



⑭坤輿万国全図



⑮伊達政宗和歌詠草「入そめて」



⑯東照宮



⑰経ヶ峯伊達家墓所
瑞鳳殿・感仙殿・善応殿



⑱陽徳院霊屋



①9圓通院靈屋



②0鹽竈神社



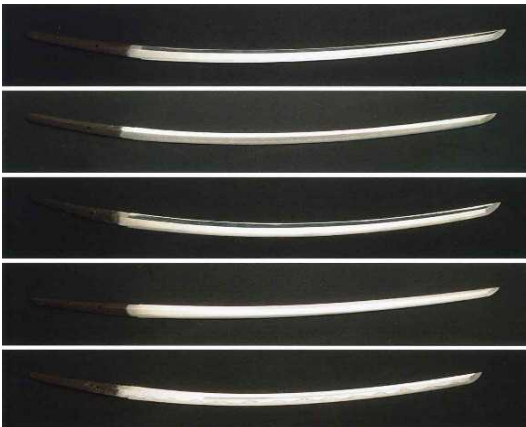
②1仙台藩歴代藩主所用具足



②2茶杓 仙台藩歴代藩主作



②3鹽竈神社歴代藩主奉納太刀



②4 観瀾亭及び障壁画



㊥ おくのほそ道の風景地
つゝじが岡及び天神の御社



㊦ おくのほそ道の風景地
木の下及び薬師堂



㊧ 多賀城跡附寺跡



㊨ 多賀城碑



㊩ おくのほそ道の風景地
壺碑 (つぼの石ぶみ)



㊪ おくのほそ道の風景地
末の松山



③① おくのほそ道の風景地 興井



③② おくのほそ道の風景地 籬が島



③③ 雄島



③④ 松島



③⑤ 富山観音堂と梵鐘



③⑥ 大崎八幡宮の能神楽



③⑦秋保の田植踊



③⑧大沢の田植踊



③⑨川前鹿踊・剣舞



④⑩福岡の鹿踊・剣舞



④⑪大崎八幡宮の松焚祭



④⑫仙台七夕



④③ 鹽竈神社帆手祭・花祭



④④ 仙台
・青葉まつり



④⑤ 仙台御筆



④⑥ 堤焼



④⑦ 堤人形



④⑧ 仙台平



④⑨ 仙台張子



⑤⑩ 仙台簞笥

